情報提供　　町長インタビューの結果（参考資料）

第６次江差町総合計画後期基本計画等策定に向けた町長インタビュー（結果）

実施日時：令和６年６月 20 日

１　５年間のまちづくりを振り返って

全体として、コロナ禍の影響で十分な成果は得られていないと感じている。人口減少・少子高齢化も一層進んでいる。コロナが感染症法上の分類が変更された後も、観光需要は回復に至っていない。

人口減少のスピードを穏やかにして、この地域に住んでいる人が長く住んでいける環境を作ることが大事であると思う。

【取組みや成果】

①産業振興

漁業の分野では所得の向上につながる新たな取組として、養殖トラウトサーモンの実証実験を行っている。

農業の分野では事業者と相談しつつ、少しずつＩＣＴ化へ転換が行われている。

こういった地場の産品を全国に届けるため、ふるさと納税に取り組んでおり、令和５年度は２億円を超え、目標を達成している。

②「不幸ゼロ」の取組

特に、子どもたちへの対応に力を入れている。所得格差が教育格差につながっているという観点から、低所得世帯の子どもたちへの塾や習い事への支援策を推進してきた。

③公共交通の確保

公共交通の分野では、お年寄りも含めすべての人が暮らしやすい生活基盤を作るということで今年度から Maas の導入を行っていく。

④多機関との連携

コロナ禍という大変な状況の中でも、大学等と連携しながら様々なことを構築し、着実にまちづくりは前に進んでいる。江光ビル跡地活用も動き出し、北の江の島構想も今後動き出すよう考えていく。

2　今後５年間及びその後の展望について

①移住促進

次の５年では江差町に来ていただく、住んでいただく人たちを増やしていくところに力を入れていきたい。ただ江差に来てくださいと言っても働く環境の整備が難しい状況である。

江差町は転勤族が多いので、単身で来るのではなく家族で来てもらい、家族でこの地域で３～５年過ごしていけるような魅力ある地域づくりをすることが、人口減少に歯止めをかける近道ではないかと考える。

②エネルギー施策

この５年でということではないが、エネルギー施策に積極的に取り組んでいきたい。特に洋上風力を地域の産業のひとつの基盤にしてきたい。

③産業振興

ふるさと納税などの制度を使って、生産者の安定的な収入にしながら、江差町としての収入を上げることによって、地域に展開できる財源の確保ができる。まずはふるさと納税をより一層強く進めていきたい。

④「北の江の島構想」

北の江の島構想をこの５年で本格的に動かしていく。特に子育て世代、道南の子どもたちや親子連れが集まる拠点にすることによって、地域の活性化につなげていきたい。

ただ観光客を増やすということではなく、いかに地域経済につなげるかという視点で考えていかなければならない。戦略をしっかり立てて検証しながら進めていきたい。

３　計画の進捗管理について

ＰＤＣＡという観点から、町全体の取組みの進捗管理はまだ不十分な点も多かったと思う。町長・副町長で四半期に１回、政策工程会議を実施しているが、総合計画のＰＤＣＡと連動していない。政策工程会議に指標を組み入れ、常に進捗管理をする意識が必要ではないかと思っている。

特に、コロナ禍で全課長を集めたヒアリングという形式を辞めて、一課ずつやるようになって、各課がまちづくりの進捗を共有するということがなされなくなった。総合計画や町政の方針を、各課が認識してやっているかというところをチェックする体制も必要だと思っている。

また、計画の指標については、相対評価ではなく、絶対評価が必要ではないか思っている。たとえば、全国学力学習状況調査の結果が指標になっているが、誰かと比べてどうという時代ではない。町としてどういう学力を身につけさていくのかというところが重要ではないか。

４　デジタル田園都市構想の展開について

デジタルの分野では我々はまだ取組みが不十分であると思う。国が掲げている方向性は正しいと思っているが、地方でどういう役割を担うのか、地域の活性化にどうつなげるのかというところまではまだまだ出来ていない。地域活性化の方向性は、しっかり考えていく必要があると思う。